

平成26年 7月10日

会 議 概 要

審議会等の名称		平成26年度 第1回 市川市社会教育委員会議	
開催日時		平成26年 7月10日（木） 14時00分 ～16時00分	
開催場所		市川教育課会館 3階 多目的室	
出席者	委員	古賀正一委員長、伊藤雅子副委員長、古山弘志委員、丸山賢治委員、清水輝和委員、緒方紀子委員、天野敏男委員、原由美委員、田中幸太郎委員、滝沢直樹委員、秋山忠彌委員、成田久江委員、谷本久生委員、千坂行雄委員	
	所管課	生涯学習部 生涯学習振興課	
	関係課	青少年育成課、社会教育課、自然学習課、中央図書館、考古博物館	
議題及び会議の概要		公開・非公開の別	非公開の場合の理由
生涯学習部 平成26年度事業概要（報告）		<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
第四次生涯学習推進計画の策定について（議事）		<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
		公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
		公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
		公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
		公開・非公開	・会議公開指針第6条第 号該当 ・公文書公開条例第8条第 項第 号該当
傍聴者の人数	0人		
閲覧・交付資料	生涯学習部 平成26年度事業概要 第四次生涯学習推進計画（案）		
特記事項			
所管課	生涯学習部 生涯学習振興課（内線：4316）		

平成 26 年度 第 1 回社会教育委員会議録

7 月 10 日 (木) 14:00～16:00

市川教育会館 3F 多目的室

■出席者

社会教育委員 古賀 正一 委員長、伊藤 雅子 副委員長、古山 弘志、丸山 賢治
 清水 輝和、緒方 紀子、天野 敏夫、原 由美、田中幸太郎
 滝沢 直樹、秋山 忠彌、成田 久江、谷本 久生、千坂 行雄 (14名)

生涯学習部 萩原 部長、千葉 次長、牛尾 生涯学習振興課長、小畔 青少年育成課長
 川野 社会教育課長、川元 自然学習課長、堀切 考古博物館長
 松本 中央図書館長、小川 主幹、叶多 主幹
 事務局：高梨 主幹、室岡 主幹、田部井 主査、齋藤 主任、藤原 主事 (15名)

■会議録

発言者	内 容
萩原部長 古賀委員長	・挨拶 および 平成 26 年度 生涯学習部職員紹介 ・挨拶 および 市川市社会教育委員設置条例に基づく会議成立の確認
各課長・館長	報告事項 1 「平成 26 年度 事業概要」 ※別紙参照
千坂委員 考古博物館長 古賀委員長 考古博物館長 秋山委員 中央図書館長	堀之内周辺等から外環工事によって発掘されたものはあるか。 雷下から 7500 年前の丸木舟や竹で編んだ籠等が発掘されている。 出土品を保管する倉庫等は不足していないか。 不足しており、小学校の空き教室等を借りて対応している。 駅南図書館の所蔵数に対する貸出数が多い理由は何か。 貸出しが多い理由は指定管理者による運営であるためではなく、最も新しい図書館で蔵書も新しく、駅直結、最新の機器等のためである。
天野委員 青少年育成課長 古賀委員長 青少年育成課長	子ども会への加入者が減少しているが、どのように考えているか。 理由として子どもの減少と、活動の分散が考えられる。今後もサポートしていく。 放課後保育クラブとビーイングの違いは。 ビーイングには参加条件がないが、今後は総合的な放課後対策として連携することも視野に入れている。
成田委員 古山委員 清水委員	ゆとろぎルームとの関連は。 カウンセラー配置と同様の趣旨により、指導課が所管して現在も運営されている。 最近の子どもたちは、挨拶がしっかりとできるし落ち着いている印象がある。

事務局	検討事項2「第4次生涯学習推進計画」について ※別紙参照
古賀委員長 生涯学習振興課長	5年後の目標値を高く設定している事業と、ほぼ変わらない事業があるが。継続的に取り組まれていく事業には飛躍的な伸びは期待しにくい、新しい事業には伸びが期待できる等、事業によって設定が難しい面がある。
古山委員 原委員 生涯学習振興課長 伊藤委員 生涯学習振興課長 滝沢委員	数値目標だけでなく、それ以外の評価方法も検討する必要がある。 5年後には事業を支えていく人、子どもや親の考え方も替わっていくが。平成27年度からの計画であるが、30年度には検証を行い修正を加えていく。 少子化にあって目標を人数で示すことは妥当か。 事業の目的にも照らして今後検討していく。
清水委員 谷本委員 田中委員	子ども会等の課題への対策が見えてこない。比較的良い計画かとは思いますが、事業の意義は強調されていても、現状に対する課題意識が伝わってこない。 受益者負担であることが、より教育の成果に結びつくケースもある。 よく考えられた計画ではあるが、計画よりも検証をしっかりと行うべき。 少年補導の回数が目標値とされていることに違和感がある。 市政戦略会議で持続可能な市政のため大胆な提案もされているが、これについてはどのように考えているのか。
生涯学習部長	今後、幅広く市民・利用者の声を聞き対応を検討する。ご指摘の提案については、HPから情報を得ることができるので、委員の皆さまにも是非ご覧になっていただきたい。
緒方委員	子ども会の加入数が減っていることに対しては、むしろ大人への啓発が大切。
事務局	4/11 葛南地方社会教育連絡協議会の報告 7/17 県社会教育代議委員会、11/20 第2回社会教育委員会議（会議の冒頭に委嘱状交付を行う）について

平成26年 7月24日 (承認)

市川市社会教育委員長 古賀 正一 印



生涯学習部 平成26年度事業概要

1 生涯学習振興課

■生涯学習推進体制整備事業

今年度は「第三次市川市生涯学習推進計画」の最終年度にあたることから、「第2期教育振興基本計画」が示す現状認識と課題および、現行計画の評価に基づく施策の改善等を踏まえ、「自立、協働モデル」としての生涯学習社会の実現に向けた取り組みを具体的に示し、「創造モデル」としての生涯学習社会への基盤づくりを目指すことを意図して、第四次計画を策定する。

■林間施設管理運営事業（菅平高原いちかわ村）

恵まれた自然の中で、市民が心を豊かにし、身体を鍛えるために四季を通じて利用できる長野県須坂市にある市川市の林間施設であるが、事業仕分け及び行政経営会議において廃止の結論を受けたことから、平成25年度末をもって営業を終了した。

■史跡整備保存事業

史跡の保存と整備を図ることを目的として、用地の公有化を推進し、環境整備を実施するもの。

■埋蔵文化財保護事業

個人住宅建設等の開発行為に先立ち、埋蔵文化財保護の観点から緊急調査を国・県補助金を得て実施するもの。

■家庭教育学級運営事業

家庭における教育力を高めること、親同士が交流を深め、心豊かに学び合うことを目的として、市立幼稚園、小中特別支援学校に62学級を開設。学級生による「自主企画運営講座」2回、文科省・県教委等の資料を紹介する「指導員派遣講座」1回、各学級生が個人単位で自由に参加可能な「共通講座」を運営する。

■コミュニティサポート事業

家庭・学校・地域の連携を推進するための情報交換の場として、推進委員会と各校委員会を運営してきたが、地域支援者に対する急速なニーズの拡大、学校支援コーディネーターの配置や東日本大震災以降の地域防災への関心の高まり、等といった新たな局面を迎え、今年度は推進構想の見直しに取り組む。

■学校施設開放事業

学校施設の開放は、学校教育に支障のない範囲で市立学校の施設を開放し、スポーツ及び文化活動の振興を図り、地域住民の生涯学習意欲の高揚を図ることを目的として、地域団体の行う社会教育活動のために実施している。

○施設開放及び時間：運動場・体育館・教室等（9時～21時）

プール（夏季休校期間（9時～12時、13時～16時）

※各中学校ブロック内1校で実施

■体験学習事業

市内在住・在学の児童・生徒及び保護者を対象に体験学習（稲作体験・農業体験）を通し、自然や人とのふれあい、勤労と収穫の喜びを体験することにより、親子の情愛を深め、心豊かな子どもたちを育てていくものである。

■学校支援実践講座

市民を対象として、学校における「いじめ問題」をテーマとした社会人権講座（年間5回）を行う。受講者は、小中学生との交流会（1学級に対し6名派遣）に参加し、この問題について、本市が独自に開発した学習プログラムに基づき意見交換を行うことで、学校に対する地域支援者としての役割を担う。2年目の今年は、小学校3、4年生、5、6年生、中学生を対象とした3つのプログラムを整備し、約60名の受講者が30学級程度の児童生徒と交流会を展開する。

2 青少年育成課

■放課後保育クラブ事業

小学校1年生から3年生（定員に余裕がある場合は、障害を有する児童については6年生まで、その他の児童については4年生の夏休みが終了するまで）の児童で放課後、保護者の就労等により保育を受けられない児童を対象に、適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図ることを目的とする。

ただし、児童福祉法が平成27年4月1日に改正され、放課後保育クラブの入所要件の一つとなる、「小学校1年生から3年生」が、「小学生」（小学1年生から6年生）まで、拡大される。

運営方法については、市川市放課後保育クラブの設置及び管理に関する条例により公設・民営（平成18年4月より指定管理者として、社会福祉法人市川市社会福祉協議会を指定）で運営している。

【平成26年4月1日現在 クラブ数 43クラブ 措置数 3,427人】

■青少年相談員活動事業

青少年相談員は「千葉県青少年相談員設置要綱」に基づき、千葉県知事及び市川市教育委員会から委嘱され、青少年の身近な相談相手、理解者としてボランティアで活動しており、市内13地区を基に連絡協議会を構成し青少年の健全育成を推進している。

- ・相談員数 175名
- ・任期 3年（平成25年4月1日～28年3月31日）
- ・活動内容 市内13地区による主催・共催事業及び自治会、子ども会、コミュニティサポート推進委員会、市関連行事への参加・協力
- ・連協活動 「いちかわ子ども村」キャンプの開催、機関紙「かたぐるま」の発刊、葛南地区行事への参加、各種研修会の開催など

■子ども会育成会連絡協議会補助事業

市内13地区内の単位子ども会の連合体である「市川市子ども会育成会連絡協議会」に対し、子ども会の活性化、指導者の養成、青少年健全育成事業の実施についての活動費の一部を助成し、堅実な活動と発展を促進し、青少年の健全育成を図っている。

■青少年指導者育成事業

生涯学習の推進、地域リーダーの育成という観点から次の講習会を実施する。

① わんぱくセミナー

- ・対象者：小学校5・6年生
- ・目的：遊びや自然体験を通して、基本的な生活力や創造力を養う
いろいろな人と交流する中で、集団における自分の役割を体験的に学ぶ

② ジュニアリーダー講習会

- ・対象者：中学生
- ・目的：集団活動を通して、リーダーシップ力及びメンバーシップ力を高める
様々な体験を通して、中学生としての資質向上を図る

③ ヤングカルチャースクール

- ・対象者：高校生
- ・目的：様々な体験を通して知識や技術を習得し、青少年リーダーとしての資質向上を図る
指導する体験を通して、リーダーシップ力を高める

④ グループリーダーアカデミー

- ・対象者：18才以上（高校生は含まない）
- ・目的：子ども会、学校、青少年団体などの子どもの指導者としての資質向上
レクリエーション、歌、クラフトなどの実技のスキルアップ
参加者相互の情報交換

■子どもの居場所づくり事業

学校施設等を活用し、放課後の子どもの居場所をつくり、地域の人々とのふれあい、異年齢間の交流による豊かな遊びを通じて、子どもたちの創造性豊かな心、共感する心を養い、子どもたちの健全育成を図る。現在、曾谷小・塩浜小・鶴指小・市川小・宮田小・八幡小・稲荷木小・平田地域ふれあい館・富美浜小の9ヶ所で開設している。

■コミュニティクラブ事業

各中学校区に組織されているボランティア組織と委託契約を結び、「遊び」を通して地域の子どもの健全育成を目指し、将棋教室やいけばな教室等の継続活動、イベント的な活動、自由遊びの場を実施している。また、その活動を通して、子どもたちの成長を支える地域社会並びに生涯学習社会の構築を目指すものである。

○ 少年センター

■ 少年補導員活動事業

少年の健全育成を目的として、非行の早期発見・非行防止のため、160名の少年補導員と市川・行徳両警察署の協力を得て、午前・午後・薄暮・夜間の時間帯に分け、繁華街、公園、ゲームセンター等を巡回し、市内全域の補導活動を実施し、少年の非行の防止に努めている。

■ 少年相談事業

学校や職場、日常生活の中で何らかの悩みのある少年（小学校就学から20歳未満の児童、生徒、学生、有職・無職少年）と、その保護者及び少年に身近な大人を対象として、専門の相談員が電話、eメール、面接による相談にに応じている。

■ 社会環境浄化啓発活動事業

少年の非行及び犯罪の発生予防を目的として、少年（青少年）に有害な社会環境の浄化（改善）活動、非行防止活動、及び少年の健全育成のための事業を行っている。主な活動としては、薬物乱用防止街頭キャンペーンを実施している。

平成26年度の薬物乱用防止街頭キャンペーンは、10月に実施予定。

3 社会教育課

■公民館運営事業・維持管理事業

市民に身近な生涯学習の拠点として、教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興及び社会福祉の増進に寄与することを目的とし、維持管理運営を行っていく。

現在、中央・菅野・鬼高・信篤・東部・柏井・大野・若宮・市川・西部・市川駅南・曾谷・行徳・本行徳・幸・南行徳の16公民館がある。

■公民館主催講座活動事業

市川市教育振興基本計画の課題「生涯学習機会の充実」と「公民館を活用した地域の学習拠点づくり」、生涯学習推進計画の施策である「公民館事業の充実」等に基づき、生涯学習の今日的な課題に積極的に取り組み、各種講座を企画実施する。

1. 現代的課題として取り組む内容

- ①子育て支援への対応 ②家庭教育への支援 ③国際化への対応 ④環境問題・エコライフに関する取り組み ⑤健康づくりの推進 ⑥ボランティア体験・養成に関する取り組み ⑦情報社会への対応 ⑧歴史・文化に関する取り組み

2. 市の施策に対応して取り組む内容

- ①高齢者福祉計画に関する取り組み ②障害者計画に関する取り組み ③男女共同参画基本計画に関する取り組み ④総合計画に関する取り組み

以上の分野を各公民館で様々な主催講座を地域の実情に合った講座をバランスよく実施し、地域住民活動の場の提供に積極的に取り組んで行く。

■公民館営繕事業

公民館は、開設後20年～30年以上経過しており、施設の老朽化に伴い使い勝手の悪さや、日常生活の洋式化などの変化に対応するため、小破修繕を含め、計画的な修繕を実施して行く。

また、利用者からの要望を取り入れ、利便性の向上を図ることで安心・安全に施設を利用していただけるよう取り組んで行く。

■成人式祝賀事業

成人を迎え、大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます事業。

平成9年度から18～20歳の青年からなる公募等の実行委員会方式を採用し、式典内容の企画を行

っている。平成21年度から、祝日開催から日曜開催に変更し参加率が向上した。本年度は、平成27年1月11日に開催する。

■いちかわ市民アカデミー講座事業

昭和学院短期大学・千葉商科大学・和洋女子大学の協力により、大学の教室を学習会場とし、年間学習テーマに基づき講座を展開する。受講生は市民から公募する。受講生には、知識の習得や仲間作りとともに、学習成果を活かした地域貢献への発展も期待している。

- ・募集人員 各大学 70名 回数 各大学（6月～2月）年／10回

4 自然学習課

○ 自然博物館

■ 常設展示事業

市川の自然に関する標本や剥製などの資料及び解説パネル、視聴覚機器を配置し、4つのテーマと飼育展示により市内の自然について学ぶことができるよう常時展示をしている。

■ 教育普及事業

市民に自然に親しんでもらう場や機会の提供のために、「長田谷津散策会」「おやこ自然観察会」「季節を感じる散策会」「名前をしらべる会」等の行事を開催している。また、少年自然の家に宿泊する市内小学4年生への大町自然観察園での自然観察・自然体験活動や要請による学校支援活動や各種団体への講師派遣、博物館だよりの発行、Webでの情報発信等の教育普及活動を行っている。

今年度は、新たに「観察シートを使った観察会」を企画している。

■ 資料収集整理事業

標本、剥製、写真、調査資料等博物館資料を収集、整理し、良い状態を保てるよう留意して収蔵し、展示や教育普及活動に活用している。

■ 企画展示事業

特別展示室において、平成25年3月2日～12月1日まで企画展「いきものの成長」を開催した。長田谷津の生きものを紹介することを中心に、数多くの生きものを飼育して展示することで、生きものの動きと分類群ごとに異なる成長過程などを紹介した。頻繁に展示内容を更新し、繰り返し来館する利用者の興味や関心に対応している。現在は、好評につき展示を継続している。

○ 少年自然の家

■少年自然の家活動

自然の中で、集団宿泊生活などを通して、情操や社会性を豊かにし、少年の健全育成を図る施設である。心身の発達や自立への可能性を高めることを目的とした野外炊事・野外スポーツ・オリエンテーリング・キャンプファイヤー等を行うとともに、平成25年度では、「チャレンジャースクール」、「親子宿泊体験」、「親子お月見の会」、「健康吹き矢」、「バラ祭り」などの主催・共催事業を計画し、市民に親しまれる施設運営を図っている。

■プラネタリウム事業

小中学生を対象に、プラネタリウムを用いた理科学習を各校の要請に応じ実施している。

また、毎週土・日曜日(7・8月は日曜日のみ)には一般投影、祝日(元旦を除く)には臨時投影をするとともに、年2回(6月・12月)のプラネタリウムコンサートを開催し、市民に心の潤いの場を提供している。

今年度は、プラネタリウムコンサートを市政施行80周年行事として、位置づけ取り組むこととする。

5 中央図書館

■図書館の整備とネットワーク

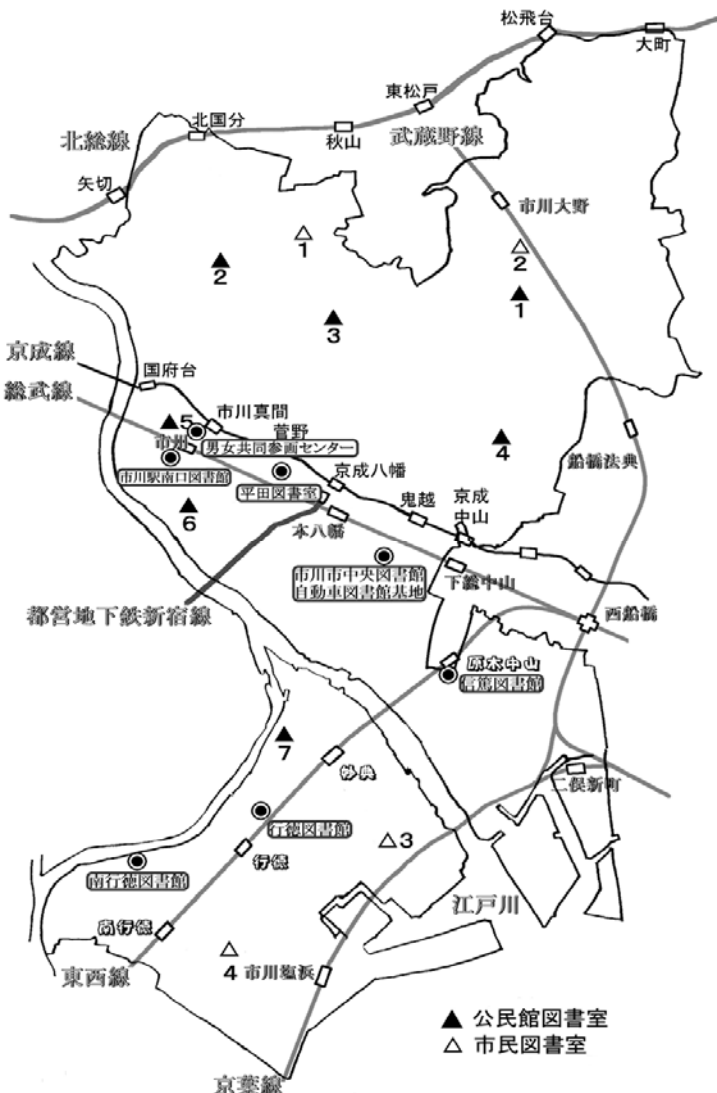
6ヶ所の図書館を設置し、また自動車図書館による巡回サービスや、小学校内に設置された市民図書室、また公民館図書室、男女共同参画センターウィズや情報プラザなどの市の機関、更には市内の大学図書館との連携による閲覧・貸出・返却・相互利用や相互貸借による事業を展開している。

- ・ 図書館5館1室
- ・ 市民図書室4室（塩焼・稲越・福栄・大柏）
- ・ 公民館図書室4室（大野・西部・曾谷・東部）への図書館システム端末設置

■利用の促進について

県内公共図書館ネットワーク相互協力による図書の提供、レファレンスサービスによる課題解決支援機能、メールマガジン、フェイスブックやホームページ等でのPR、祝日開館等の施策により市民の利用を促進し、さらに多くの市民に利用していただけるようサービスの充実に努める。

- ・ 貸出数 3,171,771 点
- ・ リクエスト 508,686 件
- ・ 相互協力（借用）5,723 冊
- ・ レファレンス受付 69,348 件



No.	公民館図書室 (▲)	No.	市民図書室 (△)
1	大野公民館図書室	1	稲越市民図書室
2	西部公民館図書室	2	大柏市民図書室
3	曾谷公民館図書室	3	塩焼市民図書室
4	東部公民館図書室	4	福栄市民図書室
5	市川公民館図書室		
6	市川駅南公民館図書室		
7	本行徳公民館図書室		

■蔵書の整備構築

図書、逐次刊行物、映像・音響資料等を購入し、分類・配架など組織化して市民に提供し、市民の書齋として多様化、高度化するニーズに対応しながら将来にわたって保存していく。

	中央	行徳	信篤	南行徳	平田	駅南	自動車	市民 図書室	公民館 図書室	ウイズ	情報プ ラザ他	合計
所蔵 数 ※	751,345	162,185	66,973	47,339	42,958	82,381	16,277	73,669	106,582	15,797		1,365,506
貸出 数 ※	1,432,031	621,029	111,152	111,906	86,983	548,863	29,291	77,491	115,567	9,135	28,323	3,171,771

※ CD (26,500 枚)・DVD (2,560 枚)・ビデオ (4,593 点)、逐次刊行物 429 タイトル を含む

■蔵書管理効率化事業

- ・中央図書館閉架書庫への集密書架増設
- ・ICタグによる蔵書管理の拡大

6 考古博物館・歴史博物館

■考古博物館・歴史博物館常設展示事業

考古博物館では、先土器（旧石器）時代から平安時代前半までの歴史を、最初の住民、貝塚の形成、農耕の開始、古墳の出現、律令の時代というテーマで、5室に分けて展示紹介している。

歴史博物館では、考古博物館の後を受けて平安時代後半から現代までの歴史を、中世以降の市川、海辺の人々の生活、水路と陸路、台地の人々の生活、郷土コーナーというテーマで、5室に分けて展示紹介している。なお、年末・年始を除く祝（祭）日を開館することとした。

■考古博物館・歴史博物館企画展示事業

考古博物館では、市内にある縄文時代の貝塚から出土した250点前後の縄文土器を展示する企画展『市川出土の縄文土器』を歴史博物館特別展示室で開催し、縄文時代に発達したうつわの文化を紹介して好評を得たが、新蔵資料はその後考古博物館にて通年展示している。

また、歴史博物館では、民具などの資料に直接触れたり使ったりする体験学習とタイアップした企画展示『昔のくらしと道具を探そう』のほか、先人が遺した絵図を鑑賞するとともに、そこに映し出される時代背景や人のくらし、現代への移り変わりを読み取り、郷土市川への愛着と興味を高めていただくことを目指した企画展、『絵図に見る市川』を開催した。

■考古博物館・歴史博物館教育・普及事業

市民に親しんで参加してもらうため、学校等団体に対する縄文体験や昔のくらし体験などの学習支援、近郊市町村を含む市跡や博物館見学会、出前を含む講座や教室・講演会、歴史カレッジ、地域と一体となって運営するフェスティバルの開催、博物館だよりの発行などの教育・普及活動を行う。

■考古博物館・歴史博物館資料収集保存・調査研究事業

市川の豊富な埋蔵文化財及び歴史・民俗資料の滅失・散逸を防ぐため、資料を収集・整理・保存する。また、これらの資料の調査・研究を更に進め、その成果を展示して、市民に市川の歴史・郷土に対する認識を深めてもらうことに努める。

なお、下総国分寺跡の発掘調査を行ったことに伴い、これまでの課題であった、下総国分寺跡調査の位置や遺構図をデジタル化して地図情報としてまとめて資料の充実を図った。